

第 81 回日本農業教育学会大会 公開シンポジウム・総会・研究発表会

主催：日本農業教育学会

後援：国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究院

■ **期日** 2023 年 9 月 23 日（土）～9 月 24 日（日）

■ **会場** 千葉大学 松戸キャンパス
〒271-8510 千葉県松戸市松戸 648

■ **大会実行委員会**

実行委員長：三島 孔明（千葉大学 大学院園芸学研究院）

実行委員：野田 勝二（千葉大学 環境健康フィールド科学センター）

長友 大幸（埼玉学園大学人間学部）

実行委員会連絡先：

〒271-8510 千葉県松戸市松戸 648 千葉大学園芸学部 三島孔明

TEL：047-308-8898

E-Mail：koumei@faculty.chiba-u.jp（三島）

■ **日程**

9 月 23 日（土）

14:30～17:00 公開シンポジウム（E棟 2階 合同講義室）

18:00～20:00 交流会（大学生協食堂 [緑風会館 2階]）

9 月 24 日（日）

9:45～11:00 研究発表会 1（E棟 2階 合同講義室）

11:10～11:40 ポスター発表（E棟 2階 206 講義室）

13:00～14:00 総会（E棟 2階 合同講義室）

14:00～15:45 研究発表会 2（E棟 2階 合同講義室）

※両日とも大学の食堂・売店は営業していません。松戸駅近辺に飲食店やコンビニエンスストアが多数ありますので、飲食店などをご利用いただくか、各自で昼食をご用意ください。

■ 公開シンポジウム [9月23日(土) 14:30~17:00, E棟2階 合同講義室]

テーマ 農業×教育×福祉～多様な連携可能性を探る～
趣 旨

農業実習・体験・教育には農業技術だけでなく、社会性を身につけさせる効果を有することが知られています。一方で農福連携の取り組みが広がりを見せ、農業と福祉が互いに協力し合う仕組みが作られつつあるなど、今後、農業実習・体験・教育の展開が多様化していく可能性があります。

そこで、今回のシンポジウムでは、企業として農業実習・体験・教育に取り組んでいる事例2つ、リモートワークで農業貢献の可能性を検討している事例1つを紹介し、様々な連携を検討しながら、今後の農業実習・体験・教育の可能性について議論していきます。

シンポジウム次第

<大会開会>

学会長挨拶 上地 由朗 (東京農業大学)
大会実行委員長挨拶 三島 孔明 (千葉大学 大学院園芸学研究院)

<第1部：講演>

司会：野田 勝二 (千葉大学環境健康フィールド科学センター)

講演：

「子供への農業体験活動のあゆみ」

本田 陽生 氏 (公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 事務局長)

「柏の葉キャンパスにおける地方創生の試み～農業×教育～」

臼井 克彦 氏 (臼井株式会社 Loco Door 管理部 部長)

「リモートワークによる農業貢献の可能性～外出困難者の農福連携～」

作田 竜一 氏 (宮城大学 教授)

<第2部 パネルディスカッション>

コーディネーター：

野田 勝二 (千葉大学環境健康フィールド科学センター)

パネリスト：

本田 陽生 氏 (公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 事務局長)

臼井 克彦 氏 (株式会社 Loco Door 管理部 部長)

作田 竜一 氏 (宮城大学 教授)

■ 交流会

日時 9月23日(土) 18:00~20:00

場所 大学生協食堂(緑風会館2階)

■ 参加費, 交流会費

金額は次のとおりです。当日受付でお支払いをお願いします。

	正会員・顧問	非会員	学生	高校生
参加費	3,000円	4,000円	1,000円	無料
交流会費	5,000円	5,000円	2,000円	

- ・高校生無料参加の場合、要旨集の配布はありません。要旨集が必要な場合は、大会事務局にご相談ください。
- ・当日の参加申込も受け付けます(交流会の参加申込の受付は締め切りました)

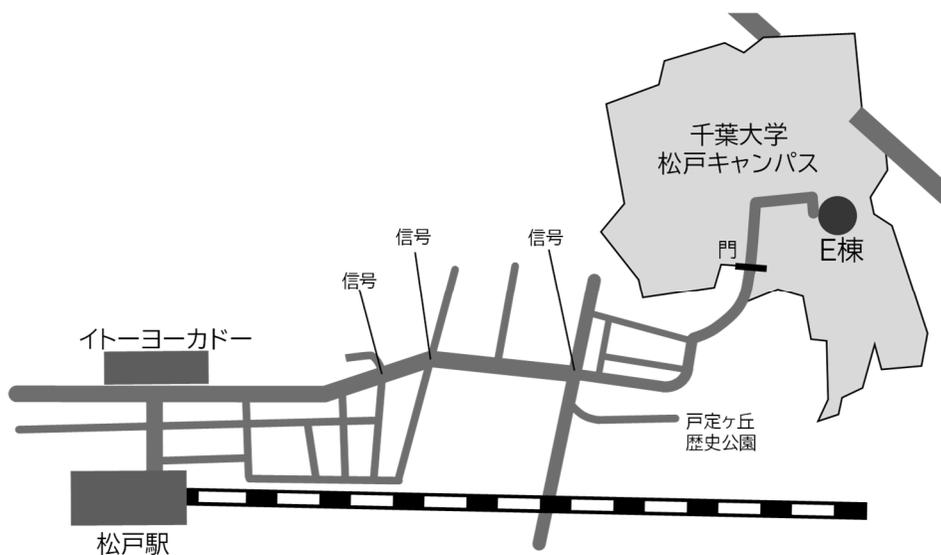
■ 交通案内

千葉大学松戸キャンパスの鉄道最寄り駅は松戸駅(常磐線、新京成線)で、駅から徒歩約15~20分です。

詳細はこちらをご覧ください。

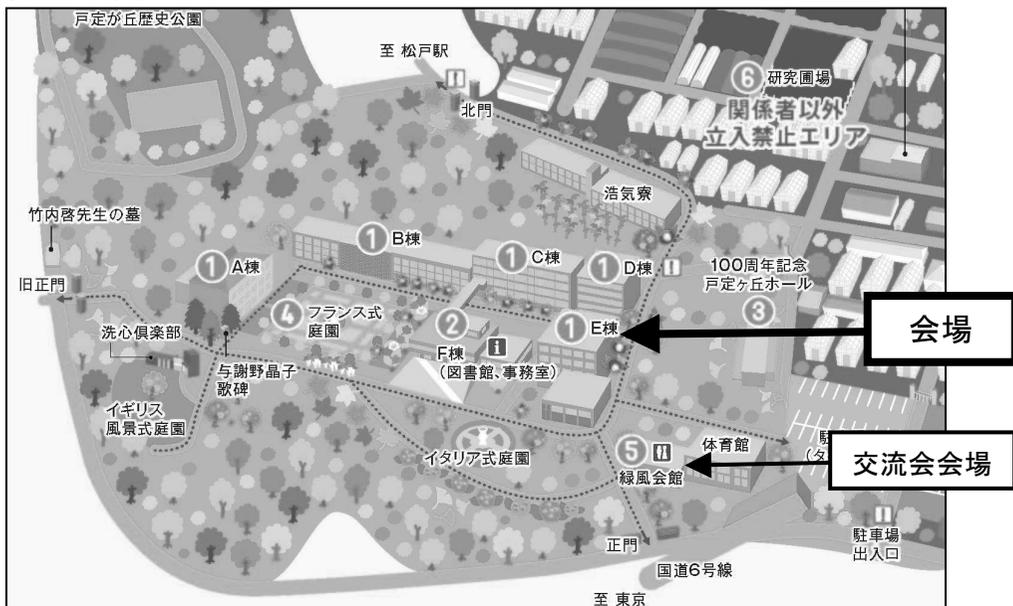
交通アクセス : <https://www.h.chiba-u.jp/access/index.html>

キャンパスマップ : https://www.h.chiba-u.jp/campus_map/index.html

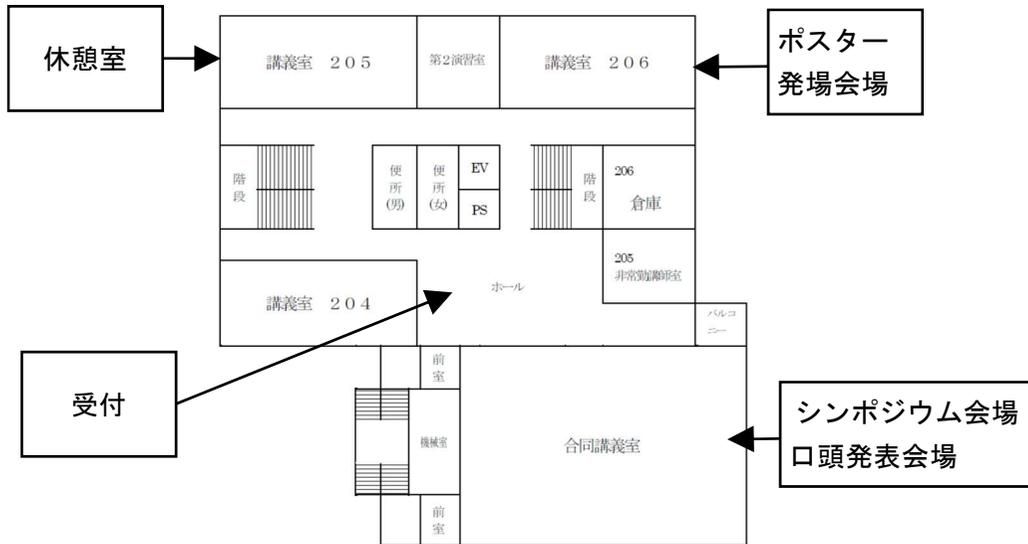


松戸駅から千葉大学松戸キャンパスまでのアクセス

■ 学内案内図



キャンパスマップ (https://www.h.chiba-u.jp/campus_map/index.html より)



E棟2階平面図

■ 研究発表会（口頭発表，ポスター発表） [9月24日（日）]

口頭発表 1 9:45～11:00, E棟2階合同講義室（発表12分，質疑応答3分）

9:45～10:30 座長：神田 啓臣（秋田県立大学）

- (1) ヒマワリ4品種を用いたフラワーアレンジメント教材の提案および
緑肥効果の検証
○鎌田 英一郎¹・横田 三奈²
¹長崎大学教育学部・²雲仙市立八斗木小学校
- (2) 施肥量の異なるワタとアイの栽培と加工をつなげた教材化に関する研究
○藤井 道彦・矢野 友暉 静岡大学教育学部
- (3) ウグイスカグラ挿し木繁殖の教材的利用
—休眠枝挿しおよび緑枝挿しの発根に及ぼす挿し木用土，IBAの影響—
渡辺 慶一*・荻野 健也・北澤 歴乃・○水野 真二・上吉原 裕亮・
立石 亮・新町 文絵 日本大学生物資源科学部・*退職

10:30～11:00 座長：鎌田 英一郎（長崎大学）

- (4) 小学校にアイガモ農法を取り入れるための技術的改善に関する研究
○平尾 健二・大谷 紗輝 福岡教育大学
- (5) 農業高校で「環境と昆虫」を学ぶ実習プログラムの試行
—動物科で行う訪花昆虫多様性モニタリング調査—
○井上 真理子・中村 祥子・井上 大成 森林総合研究所多摩森林科学園

ポスター発表 11:10～11:40, E棟2階206講義室

- (1) 福祉教育を目的としたガーデニング活動実践研究
林 典生 南九州大学

- (2) 身近な材料を用いた水耕栽培教材開発の試み
—ダイズの根粒着生—
○新町 文絵・笠原 和正・水野 真二・渡辺 慶一 日本大学生物資源科学部
- (3) 新しく開発された高機能性イネを大学専門教育に取り入れる効果
○徐 希哲・上地 由朗 東京農業大学大学院
- (4) 積雪地におけるチューリップ水耕促成栽培の教材化
(1)教材の改良と公立中学校での実践
○勝川 健三¹・庄司 楓²・笹森 賢司²
¹弘前大学教育学部・²弘前市立東中学校
- (5) 農業教育と環境再生型農業
「農業と環境」の指導項目としての考察
小松崎 将一 茨城大学

11:40～13:00 昼休み

13:00～14:00 総会

口頭発表 2 14:00～15:45, E棟 2階合同講義室 (発表 12分, 質疑応答 3分)

14:00～14:45 座長: 藤井 道彦 (静岡大学)

- (1) 地域にねざした小学校におけるイネ栽培学習の実践活動とその効果
○牧川 雪乃¹・中山 美和²・上地 由朗¹
¹東京農業大学・²狛江第三小学校
- (2) 各地域と高校生とともに植物遺伝資源の利活用を考える
～先島諸島の在来モチキビ復活栽培の取り組み～
○玉木 陸斗^{1,2}・平良 舟江³・下地 清雄³
¹東京農業大学大学院農学研究科・²東京農業大学宮古亜熱帯農場
³沖縄県立宮古総合実業高校

(3) 小学校間の遠隔交流を取り入れた在来野菜の栽培学習プログラムの開発

○森 太郎¹・市川 美音¹・森田 結衣¹・深田 航希²・菰田 智恵²・
池田 修一²・久保 加織¹

¹滋賀大学教育学部・²甲賀市立甲南第二小学校

14:45～15:15 座長：平尾 健二（福岡教育大学）

(4) 栽培体験指導に関する小学校教員養成課程における授業及び小学校教員の
研修の現状

○三島 孔明¹・小島 宗悟²

¹千葉大学園芸学研究院・²元千葉大学園芸学部

(5) プログラミング教材 MESH を用いた自動灌水教材の提案

實野 雅太 東京農業大学教職課程

15:15～15:45 座長：森 太郎（滋賀大学）

(6) 環境教育を軸としたフランスのESDに関する考察

—農業教育での取り組みに着目して—

安部 由香子 東京農業大学教職・学術情報課程

(7) 対面およびオンラインのハイブリッド形式による親子農業体験事業の試み

○門脇 正行¹・江角 智也¹・城 惣吉¹・土本 浩之²・安田 登²

¹島根大学学術研究院農生命科学系・²島根大学生物資源科学部